

遊びの変容による体力低下問題に関する一考察

A study on the issue of the deterioration trend of physical fitness influencing on the change of children's play

1K06B240

指導教員 主査 吉永武史先生

吉田 憲

副査 友添秀則先生

【序章】

子どもたちの体力低下が社会問題になっている。その解決策を検討する研究がさまざま行われてきたが、いまだ解決には至っていない。これは文部科学省の体力調査からも明らかであり、新体力テストの種目によっては下げ止まりになってしまっているのが実情である。そこでこの状況を打開していくための手がかりとして「遊び」に注目した。現代の子どもたちの遊びはテレビゲームが主流となり、外で遊ぶことは以前と比べて非常に少なくなっている。この現状が子どもたちにどのような影響を与えているのかについて明らかにするとともに、どのような解決策が見出されるかについて検討した。

【第1章】

「遊び」とは何か。第1章では、遊び研究の第一人者であるホイジンガの考える遊びの定義とその研究をもとにさらに「遊び」を追究したカイヨワをもとに遊びの本質と定義を検討する。前者は遊びそのものが持つ面白さこそが本質であるとして遊びを定義し、後者はホイジンガの考えを批判しながらも大筋で相違はなく、いくつか付け加えながら定義している。カイヨワの考える分類論にあるアゴン、アレア、ミミクリ、イリンクスのうち特にイリンクスの領域を含めたのはカイヨワの独創的なものであった。

【第2章】

第2章では、深刻化する子どもの体力低下問題の原因とその影響について遊びを中心に検討する。遊びの変容は先行研究による調査をみれ

ば一目瞭然である。遊びの種類はボール遊びやかくれんぼといった外遊びからテレビゲームなどの室内遊びに変わり、それが原因で当然遊び場所も自然的空間から室内空間へ偏ってしまっている。この原因が第1章の両者がいう日常とは隔離された「時間」と「空間」それに外遊びをするのに必要な「仲間」の三間の欠如にあるのではないかと考え、それぞれについて一昔前とどのように変化し、今どのような状況にあるかを検討した。また、遊び以外の体力低下問題の原因についてもいくつか検討している。例えば、生活スタイルの変化や国民の潜在的意識と社会状況などといったものである。

【第3章】

第3章では、この現状を打開するための解決策として考えられる方法を「学校」「家庭」「地域」の3つの視点から検討した。まず「学校」では、三間の揃っている環境を十分に活用して教師や地域住民の協力も得ながら休み時間等に活動することで遊ぶ時間を増やす。また、「家庭」では意識改革と遊びや体力に関する知識を改めることが最優先であるといえる。そして「地域」では、遊びを知っている大人と子どもの接する機会を増やすために総合型地域スポーツクラブの発展を促すことが必要であると考えた。しかし、これらの解決策はこの三者の連携、協力がなければ成り立たないと考えられる。

【結章】

第3章までに遊びとその変容、そしてそれが原因で起こる体力低下問題の解決策について言

及してきた。現状からして、大人が子どもの遊びの手助けをしなければいけないと考える。しかし、それはあくまで遊びの環境を整える土台作りであり遊びの定義にもある自由な活動という定義を犯してはならない。この解決策が少しでも体力低下を食い止めることを願っている。